

女子会

女子A「ねえ。ちょっと聞いてよ。ウチの男子ってどれもこれもサイテー」

女子B「ウチも同じよ」

女子A「セクハラギリギリ。パワハラギリギリ。もううんざり」

女子B「ほんとと頭に来ちゃうわ。男子って・・・男子は・・・だんしが・・・」

☎「GoooooooooGoooooooooGooooooooo」

女子A「あつ。電話。誰。もしもし。どちら様でしょうか」

師匠「あー。オレ・オレ。オレだよ！誰か呼んだ？」

女子A「あの一。おかけ間違いではないでしょうか」

師匠「あー。分かった。しらくの野郎だな。あの野郎。あの一すまんが、向こうのカウンターに着物羽織った男いるだろう。その男”しらく”って言うんだ。申し訳ねえ。ちょっと電話代わってもらえねえか。おねーさん」

女子A「あの一。しらく様でしょうか。お電話代わってもらえないでしょうか」

しらく「えっ。あつ。はい。あーもしもし。あんた誰」

師匠「お一。しらくか。オレだ・オレ・オレだよ」

しらく「オレ・オレって、もしかして、オレオレ詐欺なの？」

師匠「誰がオレオレ詐欺だって。師匠だよ。お前師匠を忘れたのか？」

しらく「えーっ。師匠。えっ師匠。なんで。どこから。えっ。今。どこなんですか」

師匠「どこって。お前、あのよ一。あのよ一。あの世一からに決まってるだろ」

しらく「えーっ師匠。あの世？あのあの。おお元気そうで何よりです」

師匠「何言ってるんだ。こっちは、退屈で・退屈で・退屈で・（大欠伸）死にそうだ」

しらく「死にそうだって。師匠。もうとっくにお亡くなりになってますが」

師匠「なあ。しらくよ。頼むから、こっち遊びに来てくんねえかなあ。一回だけ」

しらく「いやいやいや。お言葉ですが、帰ってこれそうにないから、遠慮しておきます。が、順番から言いますと、ママシさんをお願いするのが・・・必ず伝えときますから」

師匠「ああママシはアレだから、まあ死なねえな。アレは長生きするもんだよ。まあ死んだところで、会えねえんじゃねえのか。根が善人だからな。悔しいけど、すれ違うな」

しらく「えっ。間違いなく、そちらは善人が逝く処なんでしょう。ねえ師匠」

師匠「ああ。でもね。嗟がかみ合わなくてさ。来る処間違えたかも」

しらく「えーっ。そちらは極楽じゃなくて、もしかして地獄なんですか。師匠」

師匠「ああそうだ。その通りだ。極楽の生き地獄だ」